2）外来魚採捕のための漁港での巻き網試験操業結果

井出充彦・大江孝二

【目的】現在琵琶湖では漁港や船溜まりでブルーギルやオオクチバスが多数観察され、これらを効果的に採捕するために、巻き網による採捕を試みた。

【方法】

高さ13m長さ40m、目合25節の巻き網を作成し、平成14年10月31日、彦根市磯田漁業協同組合の協力のもと、採捕を試みた。採捕は彦根市須越町地先宇曽川漁港内の5地点で行った。採捕の手順は①防波堤を基点に船に乗せた巻き網を沖へ移動しながら、順次円を描くように投入して行き、魚群を囲い込んだ後、基点まで戻る。この時点で中の魚群が囲い込まれた状態になる(写真1)。②沈子綱と浮子側のロープを船上へたぐり寄せる。この間、船の下から魚が逃げないよう、塩ビパイプで水面をたたき続け、魚を沖側に移動させる。③最終的に魚を網がたるんで袋状になった部分に追い込み、船上へ引き上げる(写真2)。以上の行程によった。

【結果・考察】

各地点1回の試行で、ブルーギルが128尾1,895g、オオクチバスが293尾23,609g、オイカワ50尾739g、ビワヒガイ17尾112g、ハス4尾15g、カマツカ3尾74g、ニゴイ1尾14g、ウグイ1尾13g、ニゴロブナ1尾87g、合計9種498尾26,558g採捕された(図2)。オオクチバスが尾数、重量ともに優占しており、次いでブルーギルが多い状態であった。地点別採捕量は、地点1が約2,600g、地点2が約12,000g、地点3が約5,200g、地点4が約5,200g、地点5が約1,600gであった(取り上げ後、バケツ収容時の容積比より計算)。1操業にかかる時間は、囲い込み開始から、取り上げ終了まで平均5.6分であった。水深は巻き網の沖側が、2～3m、基点側が0.1～1mであった。港内の水温は16.1℃(14:35)であった。操業時、巻き網の外側のオオクチバスは逃げずに興味を持つかのように近づき、網の方向を向いて静止しているものがいることが観察された。

作業には最低5人(浮子側ロープ担当2名、沈子綱担当2名、追い込み担当１名)が必要であるものの、短時間で可能であった。このことから、漁港のように水深が数mある比較的深い蟯集場所では、他に方法がない現状では、有効な方法であると考えられる。

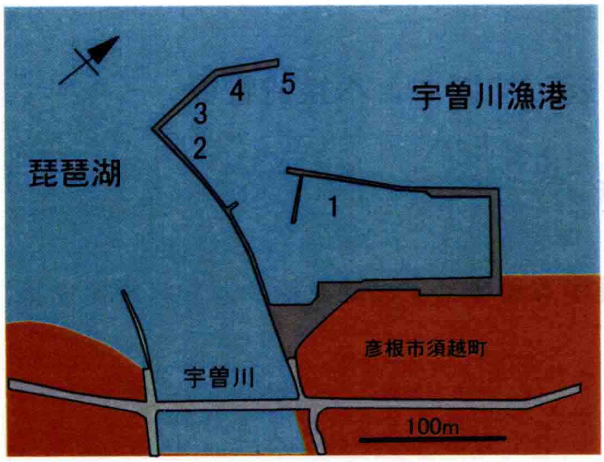
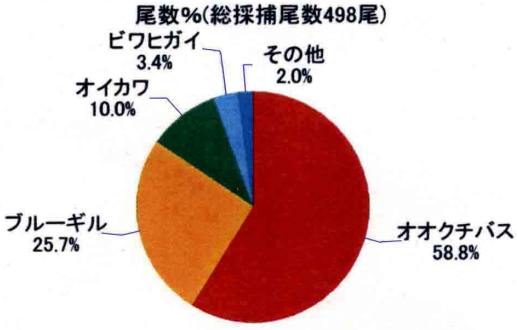


図1　巻き網試験操業地点.

写真1　囲い込み終了直前.
円を描きながら網を投入していく.

写真2　揚網中.
魚は沖側の網がたるんで袋状になった部分に溜まる.

写真3　採捕された魚類.



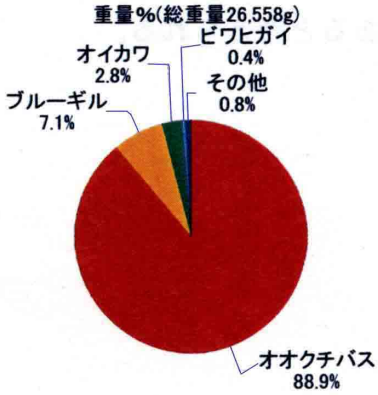


図2　巻き網試験操業結果.